

医師は語る



医療法人社団 健翔会
堀口医院医師 堀口 裕

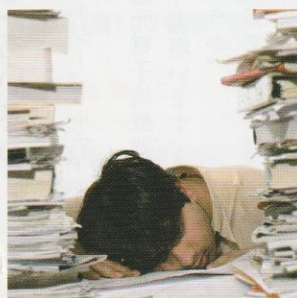
健康の方角を見定める

病気になるたくて病気になる人は、一人もいません。でも予期せずに、あつという間に病気になるのです。そして大抵は自分がどうして病気になるのか全く分かっていませんので、右往左往するばかりで、やるべき治療ができていないのです。もし病気になるなら、そのとき一番大事なことは「健康の方角」を見定めることです。つまり健康という目的地が西の方角なのか、南の方角なのかを見つけることです。これが分からないなら、病気を改善することは難しいです。やみ雲に治療しても病気はどんどん悪化していきま

目指す方角とは

体の手入れ

健康のときは健康の方角が見



働きすぎにはくれぐれもご注意ください...

つかりません。何故なら健康の位置に居るわけですから当然です。でも病気になるたら健康の位置がはつきり見えるはずなんです。どこに?と思われるかも知れませんが、自分自身によく尋ねてみて下さい。そもそも病気になるのは自分のせいです。他人から病気を預かって病気になる人など絶対にいないのです。病気になるのは、自分自身が疲労困ぱいするほどのストレス(過労)を長きに亘ってかけ続けたからです。毎日のように「これでもか!」と。体を傷めつけば、誰だつて病気になるのです。そしてそんなことくらい誰もが知っているのです。うして病気になるのかと首をかしげる人も多いのです。まことに人間の身勝手さです。一番簡単なことが、一番理解出来ないのです。これで方角が見えたでしょうか。「自分の体をいたわり、生涯にわたって手入れをすること」これが目指す方

角です。これがなくしてどんな高価なお薬を飲んでも、どんな高級な食べ物を摂っても健康になれません。

体を傷めつけると病気になる

では体をどういたわり、どのように手入れをしたらよいのか、それは余りに簡単すぎて、そのために難しいのです。そこを説明します。大抵の人は一日に3回ご飯を食べています。あるいは2回の人もいます。あるいは私たちが食べたご飯はどこへ行くのでしょうか。大便や小便は排泄物と呼ばれますが、これが食餌のカス(老廃物)であることは皆知っています。食餌の一番大切な成分は肝臓に行ったり、脳みそに行ったり、筋肉に行ったり、いわゆる体全体の臓器に行きわたるのです。これから夏に向けて暑くなり、とてもビールの美味しい季節です。(残念ながら筆者は殆ど飲みません。残念ながら筆者は殆ど飲めないのですが……)この飲んだビール、美味しかったという満足を与えてくれた後は肝臓で分解処理されます。でもこれは肝臓にとって大きな負担です。よほど肝臓が丈夫でなければなりません。

実はこの肝臓の丈夫さこそが、食餌から供給されるたつぷりの栄養源でまかなわれるので

傷だらけの細胞を磨くための「電子」

残念ながら私たちの体はすでに傷だらけです。普段から体に負担を掛けすぎないことも大事

ですが、殆どの人は積極的に体の手入れをしないといけない状態にあります。では、体の手入れとは具体的にどこを指しているのでしょうか。人が病気になる時、例えば「あなた大腸ガンですよ」と言われたら、それは大腸の細胞がガンに変化したのです。「あなた肝硬変ですね」と言われたら、それは肝臓の細胞がかなり壊れてしまっていることを意味します。

私たちの体は全て細胞でできています。体に負担をかけて病気になるということは、実は細胞に負担をかけて病気になるということです。私たちの細胞は日頃のストレスと不摂生で傷つきスタスタになっています。この細胞をピカピカに磨くことが「健康の方角」なのです。そして細胞を磨けるのは食べ物や空気の「電子」だけなのです。でも全然足りない場合には、是非電子の補充をやして下さい。それが「還元電子治療」の意味です。

堀口裕先生プロフィール

北海道北見市出身。川崎医科大学卒。一九九二年、香川県坂出市に医療法人健翔会 堀口医院開院。ネガティブイオンの生理的作用に関する研究の第一人者。現在、代替医療として独自に開発した細胞内検査と還元電子治療を駆使した「細胞内診療」を医療の最前線に立って推進している。